

# 独り言

2013年

江見千秋



CHIAKIの独り言ブログ

この冊子は、  
「CHIAKIの独り言」ブログに  
投稿した内容を冊子に編集した  
ものです。

表紙の「独り言」の書は  
以前、「書道村」を主宰されていた  
川戸翠紫先生に書いていただきました。  
た。

## 年賀

2013-01-01 | WebLog

明けまして

おめでとうございます！

すばらしい一年になりますよう

心からお祈り申し上げます

本年もどうぞよろしくお願いいたします

あけましておめでとうございます！

2013年 元旦

旧年中はいろいろ  
お世話になりました。

本年もよろしく  
お願いいたします。



## 子どもは遊びが好きはず…

2013-01-10 一独り言

新年を迎えてもう10日になる・・・

除夜の鐘から初日の出、初詣、お雑煮・お節、七草・・・と、例年のように新しい年を迎えたが、チョット気になったことがある・・・

それは、自分が子どもの頃、正月に楽しんで遊びをほとんど見かけなかったことである。

凧上げ、羽根つき、コマ回し、双六、カルタ取りなど・・・

双六、カルタ取りなど屋内の遊びはそれぞれの家で楽しまれていてかもしれないが、凧上げなど屋外の遊びをほとんど見かけなかったので、多分あまりされていなかったのではないだろうか・・・

このような遊びを見なかったというより、屋外で走り回っていりる子どもをほとんど目にしなかったのがさびしい・・・

いったい子どもたちは正月をどう過ごしたのだろうか！？

12月に、ボランティア活動として、子ども達を対象に「凧作り・凧揚げ」の企画をし



たが、応募者がほとんど居らず、仕方なく取り止めにしてしまったのである。

最近、子ども達は外での遊びを忘れてしまったのだろうか？

それとも、子ども達の親がそのような遊びの楽しさを知らないまま育ち、今の子ども達に伝授できなかったのだろうか？  
どうも後者のように思える！

ここ数年、毎年小学校1年生に「昔あそび名人」として、コマ回しや割り箸鉄砲、けん玉、お手玉などを伝授に行っている。

子ども達は、想像以上に嬉嬉として楽しみ、後でその感想を一所懸命書いて送ってくれる。



子ども達は遊びは好きなのである！

どうも大人の方が、子ども達の喜ぶ遊びに消極的になっているように思えてならない！？

ナイフを持たせると危ない！ 木に登ると落ちる！ 火を燃すと危険だ！・・・と安全第一を考え消極的になっているのかもしれない。  
安全は第一であり、大人が見守ってやる必要があるが、子どもなりの危険性は経験させても良いのではないかと思う。

ものの作りで自分の手を切って痛さを知り、友達を傷つけてはいけなことを知るのはないだろうか！？

とにかく、楽しい遊びを通して生活の知恵を  
考えさせる場を作ってやりたいものである・・・



## 子ども達は遊んでいました・・・

2013-01-14 — 独り言

先の書き込みで「屋外で走り回っている子どもをほとんど目にしなかったのがさびしい・・・」と、自分の子どもの頃を思い出して書きましたが、安心しました・・・

新年の地区の「どんど焼き」の場所で、子ども達は羽根つきをしていました！



羽根つきのほかに、風揚げ、コマ回し、竹馬  
などもしていました・・・

準備されたのは、多分地区のお母さんやお  
父さん方と思いますが、子ども達ののびのび  
とした遊び姿を見て、自分も楽しめたので  
はないかと思っています。

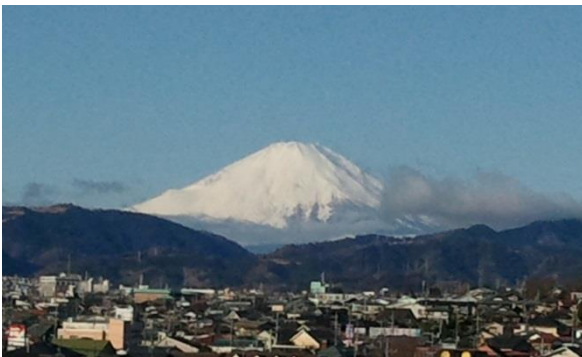
ぜひ、できるだけ多くこのような機会を作  
ってほしいと思った次第です・・・

よろしくお願いいたします！

---

## スマートフォンからの投稿です

2013-01-19 — 独り言



## 春の足音

2013-02-14 — 独り言



朝方はまだ寒い日が続いているが、立秋もすぎ、梅の開花のニュースも耳にする頃となり、どこかに春の足音が聞こえてくるような季節になりました

た・・・

桃の節句も間もなくやって来る・・・

一足先に、早咲きで有名な湘南にのみやの菜の花ウォッシングのイベントの一つである雛の吊るし飾り展が2月の初めに催されました・・・

桃の節句と言えば、桃の花にお出ましいたできたいが、自然に咲く桃の花は少し先の様である！？

子どもの頃は（田舎では、今でもそうかもしれないが・・・）、いろいろな節句は月遅れで祝っていた・・・したがって、桃の節句には咲き始めた桃の花、錦糸卵やピンクのどんぶの乗ったお寿司に添えるセリや田螺は子ども達が野や田圃に行って採ったものである・・・

現在の暦は、どうもセツカチの様である！？

スーパーマーケットに行って、祝いの素材を採るのではなく、自然の野山に行って採ったものでお祝いするような・・・

チョットのんびりした日々を送りたいものである！



問題意識↓ヒント↓試す↓

実行↓成功

2013-02-25 — 独り言

過日、当地の熊本県出身の方の記念館に、全国区で人気物の「くまモン」がやって来た。

この「くまモン」の昨年の経済効果が約3



00億円と耳にした・・・  
この「くまモン」誕生は、熊本産の品物を拡販したいとの問題意識の成果だと思う。

また、別の話題で、製品化され多くの家庭の食卓に上がっている「干しシメジ」は、豊作で値下がりし困っていた時、放置していた「シメジ」が干からびたのを見た生産者が、それを使って「シメジご飯」を作ったら”美味しかった！”これに改良を重ね「干しシメジ」として売り出して成功されたようだ！

このように、何かを求めているとき、日常身の回りに有るヒントを見逃さない・・・それを試してみる・・・試行錯誤を繰り返す・・・

そしてものにする！

このようなことは、ノーベル賞を受賞する  
ような大発見・発明の場合にも多く耳にする！

成功するためには、常に何を見つけようとして  
いるかを脳味噌の中に置いておくことが  
最も必要のようだ・・・

そうしないと、日頃身の回りに転がっている  
宝物を見逃してしまうようだ・・・

成功は、身の回りのヒントから！

ヒントを見逃さないように努め  
たい・・・そのためには、日頃の問題意識の  
持ち方が大切だ！

## 桃の節句

2013-03-03 一作品

今日は**桃の節句**であるが、暦の方が早い  
か、桃の花はまだよう・・・それに代わり、



同じ雰囲気の紅梅が満開に近い！

数年前に作った、お雛さんをあしらったコースターを取出してみました・・・

このような、季節季節をフォローするお節句は、子どものころを思い出させてくれる楽しいマイルストーンです。

これからも、

大事に楽しみたいものです！



## お彼岸の中日

2013-03-20 — 自然の技

今日はお彼岸の中日で

す・・・

春分というより、**お彼岸の中**  
日といった方が、ほんわかと季節感を感じます・・・

それにしても、月日の経つ

のは早い！



つい先日**桃の節句**のことを書いたばかりです。

今年は一寒四温をあまり感じる間もなく、初夏を迎えたような気候で、**サクラ**もビツクリして咲き始めた感じがします・・・

歳を重ねると、気分的にはゆっくり・のんびりしたいと思うのですが、なんだか「歳月人を待たず！」といった時間の移ろいに焦ってしまう・・・

しかし、自然を観ると、多少の差はあるが、季節季節の時間を刻んでいるのです！

まあ、自分の焦る気持ちは何処かにホッポリ出して、自然に甘んじながらマイペースで時間を過ごしたいと思っているこの頃です・・・



## 運転免許証更新

2013-03-21 — 独り言

先日、運転免許証の更新を行ってきました・・・

今回は、従来と違ってチョット心配していたが、警察署の更新窓口で「ハイ、合格です！」と一言言われ、晴れ晴れとした。

というのは、最近視力に自信がなく、気にしていたのです・・・

さらに、1月の人間ドックで白内障の傾向があるので、精密検査を受けるように言われ、早々に精密検査を受け、「その傾向がある！」が、生活に支障なければ手術はしなくてよ



に合うと思ったからです。

ここでも「大丈夫！」との結果は貰っていたが、やはり更新の視力検査までは心配だった・・・

い！」と診断されたのです。

それと前後して来た高齢者講習の連絡にすぐ申し込んだ・・・もし白内障であれば治療すれば、更新の時期に間

したがって、「ハイ、合格です!」の一言で気持ちが晴れ晴れとしたのです。

歳を重ねるとどうしても身体にガタが来

る・・・

しかし、一人で心配しているだけでは、心配が増幅するだけのように思われるので、余裕を持って先手先手で第三者にチェックしてもらうのが、気持的にも救われるようです・・・

これからも、「**早めにチェックを受け、その結果を尊重して日々を過ごす!**」と思っ  
た、今回の運転免許証更新の一こまでした・・・

## 「サイタ サイタ サクラガ

サイタ」

2013-03-25 一想起出(学びの時代)

今年は、例年より早くサクラが咲いた・・・

満開のサクラを見て、「サイタ サイタ サクラガ サイタ」の言葉が浮かび、ふと自分の小学校(本当は「国民学校」だったが)への入学のことを想い出そうとなりました。



「サイタ サイタ サクラガ サイタ」は、  
1年生の「ヨミカタ」の最初の文言ではな  
ったか!？と・・・

インターネットで調べてみると、違ってい  
ました・・・

昭和16年4月から「国民学校」となっ  
ていたのです。

それに伴って、国語の教科書(ヨミカタ 一)  
は「アカイ アカイ アサヒ アサヒ」へと  
変わっていたのです。

したがって、自分が最初に手にした国語の教  
科書は「アカイ アカイ アサヒ アサヒ」  
で始まったようです・・・

それを手にしたのは、70年前でした・・・  
記憶とは不思議なものです・・・

「アカイ アカイ アサヒ アサヒ」は、  
すっかり脳の片隅から消えていたのです。

正月が入学の季節だと覚えていたかも知  
りませんが、4月が新学年だと「入学↓サクラ」  
の方が脳の神経が繋がりがやすかったよう  
です。

「アカイ アカイ アサヒ アサヒ」は、  
戦争に突入する前触れだったのでしょう・・・  
だから忘れた方が良いのかもしれない。

「サイタ サイタ サクラガ サイタ」を  
何時までも子どものころの思い出にしてお  
きたいものです・・・  


## 想い出

2013-04-17 ― 想い出 (サラリーマン時代)



後2つ正月を迎えると「八十路」を迎える年になります

た・・・

齢を重ねると、なぜか断片的であるが昔のことを想い出す

ことが多くなってきました！

手元に、想い出の基になる資料はほとんどなく、時系列的に前後し内容的にも定かでないところがあるかもしれませんが、頭に浮かぶままにこのブログに書きとめたい思い書き始めました。

手始めに、社会人になった頃の想い出です  
が・・・

写真は、自分がサラリーマンとなり、はじめて設計した**指定券印刷機**が使用されている「**みどりの窓口**」の様子です。（駅員の右手の先にある装置が**指定券印刷機**です。）

自分が入社した年に、日本最初のオンラインシステムである国鉄の座席予約システム（MARS-1）が稼働し、その後、新幹線が開業した1964年に本格的システムであるMARS-101が完成し、主要駅に「**みどりの窓口**」が開設されたのです。

担当した**指定券印刷機**は、自分のアイデアが形になり動く**楽しみ**、開発の**苦しみ**が一杯詰まった装置なのです。

これらに關しての逸話を前後左右すること  
が多々あると思いますが書いていこうと思っ  
ています。

参考：MARSとは

元々は“Magnetic electronic  
Automatic seat Reservation System”(磁気  
的電氣的自動座席予約装置)の略でしたが、  
現在は“Multi Access seat Reservation  
System”(旅客販売総合システム)の略とされ  
ています。

## 夏季実習：「磁気ドラム」

2013-04-17 ― 想い出 (サラリーマン時代)

大学4年生の夏休みに、1ヶ月間だと思  
うが、結果的に入社することになった会社の工  
場で実習しました。

実習現場となった職場は、先に書いたMARS-1  
のデータ記録装置としてに使用されていた**磁  
気ドラム**の設計部門で、実際は**磁気ドラム**の  
組立て・調整に携わったのです。

対象の**磁気ドラム**は、径300mm、長さ300mm  
のアルミの円筒が3000rpm回転し、その表面  
にコーティングされた磁性体に磁気ヘッドで  
記録を行うものです。

実習内容としては、次のようなことを行っ  
たように記憶しています。

- ・回転体がスムーズに回転するように回  
転バランスを測定する。

(自動車のタイヤのバランスを測定す

るようなもの・・・)

・回転体の表面と磁気ヘッドの隙間(2~30mm位ではなかったかな?)を調整し、

データの書込・読出波形を記録する。

ここで作ったレポートは、手元にはないが、会社では研究報告に準じ保管されているはずです。

想い出として浮かぶのは、実習生ながら、慣れない工場現場で社員とともに夜遅くまで作業し、上手く行かなかった時にはがっかりした顔を、上手く行った時にはにっこりした顔を見合わせることを経験したことです。

一方、宿舎では、10数人の実習生が大広間で生活し、レポート(日誌)を書いた後は、開発途上のカラーテレビの画面を一面ピンク

にしたり(まだカラー放送がなかったのかな!?)しながら過ごしたことが、楽しい思い出です。

(その頃、現在のようにデジカメがあれば、楽しい写真が残せただろう!・・・と思うだけで、残念ながら写真は有りません・・・)

## アーカイブスでタイムスリップ

2013-04-18 ― 想い出 (サラリーマン時代)



このカテゴリ「想い出」を書きはじめて、何か参考になる

資料はないかと、キーワードを模索しながら  
検索していたら、ほぼ50年前（1964年）に  
執筆した論文集のアーカイブに出会いました。  
それは、「MARS-101 座席予約用端末教局装置」  
という題目で、下記サイトにありました。

[http://digital.hitachihyoron.com/pdf/1964/06/1964\\_06\\_23.pdf](http://digital.hitachihyoron.com/pdf/1964/06/1964_06_23.pdf)

右の写真（サムネイル）は、同誌に掲載していた、自分が担当した**指定券印刷機**関係の紹介写真です。

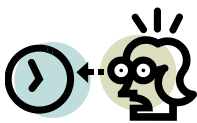
書いたことは記憶にあったのですが、50年ほど前に書いたものに再会できるとは思っていませんでした。

この「**想い出**」を書き始めていなければ、多分再会することはなかったのではないかと思います。

います。

ちょうどその年は、第18回夏季オリンピックが東京で開催された年であり、東海道新幹線が開業した年でもあります。

これをネタに、当時の想い出をさらに膨らまし、この「**想い出**」を綴っていきたいと思います。



## 子どもの頃の思い出

2013-04-19 ― 思い出 (学びの時代)



先に、サラリーマン時代の思い出を書き始めましたが、思い出は当然子どもの頃、学生の頃にもあると考え、新しいカテゴリとして「思い出 (学びの時代)」として

書いてみようと思い立ちました。



手始めに・・・

庭に生え、昨日も摘み取って食べた「セリ」  
(右の写真は庭のセリです。) て思い出した  
ことを・・・

チョット時期が過ぎたのですが・・・子どもの頃「雛の節句」(田舎では月遅れで4月3日だった筈です)になると、ちいっちゃな竹の籠を持って、田圃に「セリ」と「田螺」を採りに出掛けました。これが、ピンクのどんぶの乗ったちらし寿司とともに、母の作るお節句のご馳走だったのです・・・

今でも「セリ」が食卓に出ると、お座敷に飾ったお雛さんとともに、子どものころの節句を思い出します。

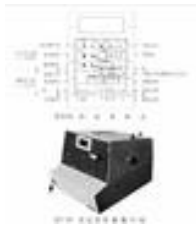
「田螺」は、最近はどうより随分前から目にしていません。田舎に帰っても目にかかりません・・・というのは、稲作のため農薬を撒くようになり、残念ながら田圃に居なくなったのです。

子どものころの思い出は、今ではあまり経験出来ないことが多々ありますが、それだけに懐かしき一杯なので、気が付くたびに書いてみたいと思います。



## アーカイブスでタイムスリップ

2013-04-18 ― 思い出 (サラリーマン時代)



このカテゴリー「思い出」を書きはじめて、何か参考になる資料はないかと、キーワードを模索しながら検

索していたら、ほぼ50年前(1964年)に執

筆した論文集のアーカイブに出会いました。それは、「MARS-101 座席予約用端末教局装置」という題目で、次のサイトにありました。

[http://digital.hitachihyoron.com/pdf/1964/06/1964\\_06\\_23.pdf](http://digital.hitachihyoron.com/pdf/1964/06/1964_06_23.pdf)

上の写真(サムネイル)は、同誌に掲載していた、自分が担当した**指定券印刷機**関係の紹介写真です。

書いたことは記憶にあったのですが、50年ほど前に書いたものに再会できるとは思っていませんでした。

この「思い出」を書き始めていなければ、多分再会することはなかったのではないかと思います。

ちょうどその年は、第18回夏季オリンピックが東京で開催された年であり、東海道新幹線が開業した年でもあります。

これらをネタに、当時の想い出をさらに膨らまし、この「想い出」を綴っていきたいと思います。

## 子どもの頃の想い出

2013-04-19 ― 想い出（学びの時代）



先に、サラリーマン時代の想い出を書き始めましたが、想い出は当然子どもの頃、学生の頃

にもあると考え、新しいカテゴリーとして「想い出（学びの時代）」として書いてみようと思

い立ちました。



手始めに・・・

庭に生え、昨日も摘み取って食べた「セリ」（左上のサムネールは庭のセリです。）で想い出したことを・・・

チョット時期が過ぎたのですが・・・子どもの頃「雛の節句」（田舎では月遅れで4月3日だった筈です）になると、ちいっちゃな竹の籠を持って、田圃に「セリ」と「田螺」を採りに出掛けました。これが、ピンクのでんぶの乗ったちらし寿司とともに、母の作るお節句のご馳走だったのです・・・

今でも「セリ」が食卓に出ると、お座敷に

飾ったお雛さんとともに、子どものころの節句を思い出します。

「田螺」は、最近はというより随分前から目にしていません。田舎に帰っても目にかかりません・・・というのは、稲作のため農薬を撒くようになり、残念ながら田圃に居なくなつたのです。

子どものころの思い出は、今ではあまり経験出来ないことが多々ありますが、それだけに懐かしさ一杯なので、気が付くたびに書いてみたいと思います。



## 山菜採り

2013-04-20 ― 想へ出(学びの時代)



今頃の季節  
(4月の終わり頃) と思いきが・・・

この頃、母たちは連れだつて、弁当、竹籠、袋(サンタクロースの背負つ

てくるような袋)を持って、山に山菜採りに出掛けます。しかし、出掛ける先が山なので、子ども達はお留守番でした・・・

ワラビ、ゼンマイ、フキ、ヨモギなどなど、一年を通しての惣菜にします。

それに子ども達へのお土産のダンジ…

午後になって、

袋一杯の山菜を担いで帰ってきます。

お土産のダンジ（「ダンジ」というのは方言らしく、正しくは「イタドリ」という）は…まず、薄皮を剥いて食べます…おやつだったのかな!?

チョット酸っぱいが、美味しかったことを覚えています。

そして、ダンジを使ったお遊び…水車を作るのです。

切り取った茎の両端に切り込みを入れてし

らく水に晒しておくと、お子さまランチに出てくる“たこさんウインナー”のように外側に反るので、中空の茎に木の枝や割り箸を入れて流水に置くと、水車のようにくるくる回ります。（写真が無くて残念!）

子ども達はそれを作って小川に急ぐのです。

母たちは、採ってきた山菜を洗い、茹でて干す準備をしていたのです。

懐かしく想い出す、新緑の頃の一コマです!



## 大失敗の初仕事…

### 記憶は失敗の基

2013-04-21 一想ぐ出 (サラリーマン時代)

入社して初めて与えられた仕事が、ソレノイド（電磁石を使った機構）でした。

参考書を買ひ、計算し、図面を描き、試作品を製作現場に加工を依頼し、自分の設計した機構が出来上がったのですが、実験室で電流を流しても、機構はピクとも動かなかったのです！



こんな筈はないと磁気専門の研究室に持ち

込んだら、その先輩が手元の磁石を機構に触つても、全然くっ付かない・・・一言、「これは磁性体ではない！！」

ほうほうのていで退散し、材料が違うのではと自席で図面を前に再チェックしていて気になったことが一つ浮かんだ・・・

それは、図面とは関係なしに、自分が製作現場で材料を探したことを・・・  
すぐ現場に駆けつけ、使った材料の残りを調べたら「やはり！ 加工してもらった材料が違っていた！」

材料は材料記号で指示することになっており、図面には正しい記号を書いていたが、現場で自分が作業者に渡した材料が違っていたのです。

不幸にも、磁性体でない「ステンレス鋼」を渡したのです。

正しい「電磁軟鋼」と「ステンレス鋼」の記号がよく似ているにもかかわらず、図面と照合しないで、記憶で渡してしまったのです！

**記憶とは、本当にあてにならない！**

**何事も愚直に照合することの必要性を肝に銘じた出来事でした！**

ますます記憶があてにならない齢になってきた今、改めてこの想い出の様な失敗を繰り返さないようにしたいと思います、今日この頃です！



## 蜜蜂

2013-04-22 ― 想い出(学びの時代)

子どもの頃、実家の裏の畑に、1箱だが**蜜蜂**を飼っていました・・・

春になると、周囲の田んぼに緑肥として植えられていた**レンゲ**草の蜜を求めて**蜜蜂**が盛んに飛び交い、自分の巣箱に運んでいました。

最近、田んぼの肥料も化学肥料が主となり、**レンゲ**草が田んぼ一面に咲いているのを見かけなくなったので、**蜜蜂**を飼う家も少なく、あるいは無くなっているのではないだろうか！？

蜜蜂を飼っていたころを思い出すと・・・

ある花、例えば**レンゲ**草が咲き終わる頃、ドラム缶より一回り大きい円筒形の中に、蜜がたまった巣枠を入れ、遠心力で蜜を取り出す様子です。

蜜の流れ出す口に指を浸し口に持って来る・・・  


ああ美味しい！とまた指を出す！

美味しい思い出です。

花の時期によって味が違うのです・・・

**レンゲ**の蜜は美味しいが、栗の花の蜜は不味い！

（春、夏の蜜は人間が戴くので、冬は巣箱に砂糖水をやっていました！）

もう一つ記憶にあるのは、**蜜蜂**の巣を狙ってアカニカ蜂（一種のスズメバチ）が襲ってきて、**蜜蜂**と戦闘になることです。

**蜜蜂**は、一度刺すと自分は死ぬので、巣箱の前は一面死骸の山になる・・・  


この消耗戦の被害を少なくするため、人がアカニカ蜂を追い払ったり、巣箱の前にアカニカ蜂の罠を付けたり大変な騒ぎになります。

今でも、実家には巣箱や、蜂の巣の枠の残骸は残っています・・・

ただ、手元に写真が無いので紹介できないのが残念です。

## ヒントは身近に！(その1)

2013-04-23 一 想 出 (サラリーマン時代)

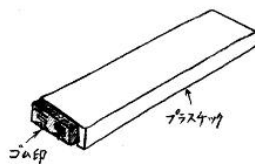
まさに「**ヒントは身近に！**」あつたのです。

とにかく、何か解決策が無いかと脳味噌を  
絶えず活動させていると、案外そのヒントは  
身近にあるようです！



基本的な方法が見つかれば、後は製品化に  
全力投入でした。

列車名、乗車駅名、降車駅名、発売駅名、  
発売日が個々に取り換えられるような「ゴム  
印」にしながら、同時にそれらを纏めて券面  
に印刷するという、世にも珍しい印刷機の設



計を進め、製品化にこぎつけたのです。

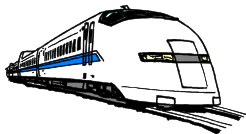


また、列車名、乗車駅名、降車駅名については棒状にし、それぞれに固有の識別コードを持たすことにより、入力も同時に行うようにしました。これについても「**ヒントは身近に！**」的な発想で製品化をしました。

この指定券印刷機については、Webサイト「TPS コンピュータ博物館」の「【日立、国鉄(JR)】MAR101 および後継機」の記事に、その様子が次のように記述されています。

「当時は発券業務を担当する窓口の係員がキーボード入力になじみがなかったことや、座席指定券や乗車券の印刷に使用できる漢字印刷機がなかったことから、窓口装置には工夫がこらされた。扁平な木片の先端に駅名や

列車名の活字、側面に機械で読み取るためのコードをつけ、その木片を装置に差し込むことによって、データ入力と券面の印刷ができるようになっていた。」



## ヒントは身近に！（その2）

2013-04-24 一 想い出（サラリーマン時代）

先の「ヒントは身近に！（その1）」で紹介した、指定券印刷機の列車名、乗降車駅名の**活字棒**に付されたコード（活字棒に開けられた穴の有無）を検知し、電気信号として取出す機構を考えていた時のことです・・・

ふと目の前の電話機（その頃はダイヤル式で指で回すもの）が目に残り、ダイヤルの動作をどのような機構で電気信号に変えているのだろう！？と疑問になり、すぐ自席の電話機を分解してみたのです。

**ヒントがありました！**

その構造を参考に、コードの読み取り機構

を設計し、製品化に繋がったのです。



これも「**ヒントは身近に！**」の一つの例だったと想い出しています。

困ったら周りを見渡すと、何らかの**ヒント**が転がっている・・・と思っているのです！

このようなことが身に付いたのか、自分でも野次馬根性は旺盛な方だと思っています。

サイレンが鳴ると飛び出して見に行く・・・

野次馬根性が旺盛なのは、血液型がB型だからと言う人もいますが！？

まあ、**野次馬根性が旺盛なのも楽しいもの**

です！



## 紀元二千六百年

2013-04-26 一 想い出（学びの時代）

新しいランドセルを背負ったピッカピカの一年生の下校しているのを見て、タイムスリップしてみました・・・  


自分が国民学校（入学前年に小学校から国民学校になった）に入学した頃のことと、想い出すのは「紀元二千六百年」と「撃ちてしやまん」という言葉です。

国民学校に入学したのは「紀元二千六百年」の次の次の年だったはずですが・・・

田舎だったからか戦争開戦前だったからか幼稚園の記憶はないのですが、入学前に買ってもらい、喜んで下げて廻っていた手提げ画板入れに「紀元二千六百年」と「撃ちてしやまん」の文字が書いてあった（今でもそのイメージは想い出せます）からのようです。

その意味は解らないまでも、「紀元二千六百年」の歌だとか「撃ちてしやまん」の言葉を大人の人们たちから、絶えず聞かされていたからだろうと思います。

なぜか、ランドセルの記憶はないのです・・・何も書いてなかったからかな！？

今では、「紀元二千六百年」も「撃ちてしやまん」も死語同然ですが、すぐ想い出すのは、やはり印象が強かったからだろうと思います。

今の子ども達は、70年後には何を思い出  
すだろう!？・・・

楽しいことを思い出してくれるように、

日頃話しかけたいものです



## 柿

2013-04-28 一 想い出 (学びの時代)



新緑の今、庭の柿の蕾を見出し、  
子どもの頃を思い出しました。

国民学校の2、3年生の頃の記憶はあまり  
思い浮かばないのですが・・・

家の周りの**柿**が色付くのは、当然秋の頃で  
すが・・・

田舎のことだから、大人は朝早くから夕方  
暮れるまで、稲の刈り取り収穫に忙しく働い  
ています。

その間、子ども達は多少は手伝いをするが、  
すぐ飽きてしまう・・・

それを見て、両親は「**柿**を探てこい!」と言  
うので、子ども達は、竹籠を持って**柿**の木に  
登ったり、先を細工した長い竹の竿を持って、  
**甘柿**採りに走ったものです。

その**柿**を、田圃に持って行って、大人たち  
と一服の休憩・・・

当然、**柿**は皮も剥かず丸齧りです・・・し

かし、美味しかった！



柿の木に登れるようになると、**柿**は木の上で食べるのがこれまた楽しみの一つであったことを思い出します。

なお、庭の**柿の木**は、田舎で食べていた木の穂を接ぎ木したもので、美味しさは変わりませんが、残念ながら、まだ小さいので、木の上で食べる楽しみはもう少し先のようにです・・・

柿をお店で買って食べることを知ったのは、かなり後でした！

## 入社早々に経験した

### 安全第一！

2013-04-29 一 想い出（サラリーマン時代）

入社して最初の2ヶ月は、集合教育とかで新入社員が本社工場に集められ、会社幹部の話聞いたたり、実際の職場での現場実習がありました。

入社式から1週間くらいは、歓迎会や新入社員の寮での顔合わせ飲み会などが多々あり、昼間の会社幹部の話はあまり記憶に残っていませんが、工場の色々な製造現場での経験は、その後の務めにも役立ち、今でも断片的ですが記憶に残っています。

その一つに「**安全第一！**」というものがあります・・・

それは、最初に配属された職場の主任から「ネクタイを外せ！」「ここで着用する作業服にはポケットが無い。実習生だから仕方ないが、手はポケットに入れるな！」の注意でした。

周囲を見ると、職場の人たちの作業服にはポケットがありません。

確かに、工作・加工現場には旋盤（製品を回転させて加工する工作機）など工作機が並び、作業者はその前で働いているのです。

ネクタイなどを付けていると、何時それが前に飛び出し、機械に巻き込まれるかわからないのです・・・

この「ネクタイを外せ！」の一言は、退職

するまで、いや今でも「**安全第一！**」の指針として脳味噌に焼き付いています。

## 終戦日の記憶

2013-05-01 ― 思い出（学びの時代）

太平洋戦争が終わったのは**1945年8月15日**であり、その時自分は国民学校4年生の夏休みだったはずです。

当日は、何時ものように、近くの小川に泳ぎに行っていたが、「昼に重大放送があるから早く帰って来い！」と言われていたので、昼前に家に帰り、上半身裸で汗を拭き拭き、

縁側に座ってラジオを聞いたように記憶しています。

内容はよく理解できなかったとようだが、それが終戦を告げる「玉音放送」だったようです。

その時の縁側での様子は想い出せるが、その時何を感じたかは想いだせません。

戦争中のことは、断片的にしか想い出せない・・・  
例えば

・朝、運動場で朝礼があり、奉安殿に最敬礼した後、教育勅語を大声で朗読？した。  
意味は解らなかった！と思う。

・出征兵士をのぼり旗を立て行列で見送った・・・

何処まで送ったかは定かでない。

・学校の運動場に、直径5 m余り？の「すり鉢」状の穴が掘ってあった・・・

遊び時間に、その中の傾斜部分を走り廻っていた・・・

少年飛行兵になって、宙返りしたときに平衡感覚を失わないようにする訓練だったようです。

断片的にでも、出来事を想い出しながら書いていると、だんだん多くなるようです。

また機会を見て書くことにします。

終戦日以前は、やはり先に紹介した「撃ちてしやまん」の精神を汲んだ軍国少年の教育を受けていたようです。

それが、8月15日を境に180度の変

化・・・

どんな感じだったのだろう！？~~~~残念  
ながらほとんど想い出せません！

## 墨塗り教科書

2013-05-04 ― 想い出 (学びの時代)

昭和20年8月15日のすぐ後のことは、  
夏休み中だったからかあまり記憶がありません。

夏休みが終わり、2学期が始まった頃の記  
憶の一つは、**教科書に墨を塗った事**です。  


多分、実家に帰り家探しすると見付かるか  
もしれませんが、教科書と言っても今では想  
像もできないようなもので、新聞紙大のわら  
半紙を切って、自分で綴じた冊子でした。

**墨塗り教科書**については、手元に資料もな  
いので、次のWebサイトの「〓墨塗教科書  
〓」を参考にしてください。

[http://www.city.ono.hyogo.jp/~kokokan/kanzouh  
in/suminuri.html](http://www.city.ono.hyogo.jp/~kokokan/kanzouh<br/>in/suminuri.html)

真っ黒に塗った教科書でどんな授業を受け  
たかは、残念ながら記憶に残っていません。

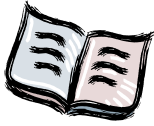
夏休み前までは「鬼畜米英」「撃ちてしや  
まん」だったのが、夏休みが終わって学校に  
行くと、戦争に係るようなところは墨を

塗る・・・

子どもながらにその変化について行けず、  
記憶に残すことができなかったのかもしれない。  
せん。



記憶にも残せないような、こんな急激な変化はあまり経験したくないし、今の子ども達にも経験させたくありません。



## 「お釈迦！」を作ってしまった！

2013-05-06 一想起出（サラリーマン時代）

会社に入り、設計者の端くれになった頃、  
「お釈迦！」を作ってしまうことが多々あり  
ました。



「お釈迦！」とは、使い物にならないもの  
ことです。

改めて、「お釈迦！」の語源・由来を調べてみると、「鋳物職人の隠語からでた言葉で、阿弥陀像を鋳るはずが、誤って釈迦像を鋳てしまつて、使い物にならなかった。」ことから来たようです。

想い出として浮かぶのは、なぜか失敗の事例ばかりです・・・上手く行ったこと、成功したこともあるはずですが、それはあまり記憶に残っていないのです・・・!?

その一つの例が・・・  
図面に書く数字が紛らわしい字であったために、部品の「お釈迦！」を作ってしまったことです。

数字の「5」を、製図文字でなくふつうメモに書くような文字で書き、さらにその図面をリコピー機（今ではほとんど見かけないような、湿式ジアゾ式複写機）でコピーしたため不鮮明になり、加工者が「3」と読み取ったのです。そのため「お釈迦！」品を30個くらい作ってしまったのです。

今では、図面をCAD (Computer Aided Design: コンピュータ支援設計) で描くため、こんなことは無いと思いますが、文字による情報の伝達の難しさを肝に銘じた失敗事例でした。

とにかく、言葉にしろ、文字にしろ、自分の意図したことを他人に伝えることは難しい！

このブログでも、自分の気持ち達が正確に伝わるかどうか心配ですが、上記の様な失敗を思い出しながら書くよう努めたいと思います。



## 課外授業は「焼き鳥屋」で！

2013-05-08 一 想い出 (サラリーマン時代)

職場に配属されたその日から、退社後帰寮途中週に2, 3回、配属先の先輩に、職場の人たちのたまり場だった「**焼き鳥屋**」に連れて行ってもらった・・・

「**焼き鳥屋**」の名前は「夏ちゃん」とか言つて、モツを目の前で焼く屋台風のカウンター式で、止まり木に座るとまず塩もみのキャベツが出たように記憶しています。キャベツを爪楊枝で刺し、モツ焼きと交互に食べるのが美味しかった！ アルコールは合成酒だったと思う  

そこでの話題は、焼き鳥の食べ方から職場のこと、仕事のこと、遊び方、世間話などなど、とにかく新社会人には役立つものばかりでした

そこには、自分の職場以外の先輩達も、よく立ち寄られており、いろんな人に紹介され、顔なじみになり、仕事の上でも大変役に立ったのです  

最近では、自動車通勤が多くなり、そのような機会は少なくなっているようだが、50年ほど前は自動車通勤など珍しく、通勤途中のこのような立寄りには多かったのです。

とにかく、このような課外授業は、仕事や世渡りの潤滑油になることが多く、リタイヤ

—した今でも、機会あるごとに参加し楽しんでいます。  


## 田植え

2013-05-10 — 想い出（学びの時代）

「田植え」が始まったとのニュースをTVなどで見ると、子どもの頃の田植えの様子を  
想い出します・・・  


子どもの頃の田植え風景は、今TVに映るような田植え機で植えるのとは全然違っていました。

まず、田植え時期になると、学校は農繁休暇といって2週間くらい？休みになり、子どもも田植えの手伝いをしたものです。

その頃の田植えは、代掻き（田植えの準備として田んぼを均す整地作業）が終わった田んぼに、地区総出の共同作業で、数人から十数人が横一列に並び、横に張った「田植えひも」の印を目印に、一人が数株ずつ担当し、一株一株手で植えるのでした。

「田植えひも」は、白い紐に30cm（位かな？）間隔に赤い玉が付いており、そのひもを順次等間隔で移動することによって、苗を格子状に植える定規の役目をするものです。

この「田植えひも」を、田んぼの両方の畔で順次移動するのが子どもの役目だったのです。雨の日は、藁で編んだ蓑を着て手伝ったものです・・・ちゃんと子供用の小さな蓑があ

ったのです。

最後の田植えの日は、「さなぶり」と言つて、手伝ってくれた人々が集まり慰労の会が開かれました。ここでの子ども役は、田植えの手伝いでなく、この宴会に出される「筍ご飯」に入れる筍を、山に採りに行くことでした。

今では農繁休暇もなく、子どもは学校で勉強・・・

田植えは、広い田んぼの中を、大人の人が乗った田植え機が行きつ戻りつ・・・

どうも絵にならず、想い出にも残らない

ような光景しか見られなくなつたて残念 

## 学校給食

2013-05-13 ― 想い出(学びの時代)

終戦後、何時頃かは覚えていないが、学校で昼の給食が始まりました・・・

戦争末期から終戦後かなりの期間は食糧難で、米のご飯はほとんど口にすることが無く、サツマイモやカボチャの蔓まで入った麦雑炊か代用食のすいとん(水団)が主だったから、給食が始まるまで弁当は何を食べていたのだろう!？・・・チョット想い出せません! 

始まった給食と言っても、開墾した畑から

掘り出してきたサツマイモを蒸かしたものと  
脱脂粉乳（アメリカからの援助物資）をお湯  
で溶いたものだったのです・・・

脱脂粉乳をお湯で溶いた物は不味く、一口  
飲んで残りを窓から捨てていたことを思い出  
します・・・

その栄養を代わりに吸ったであろう校庭の桜  
の木も、数年前の廃校とともに無くなり今で  
はその姿を見ることが出来なくなっておりま  
す。

遥か昔の思い出になりましたが、口に慣れ  
ない給食だったから思い出したのでしょ

う・・・



ただ、脱脂粉乳の粉は美味しかった！

脱脂粉乳の粉は、木の樽に入って、学校の調

理場の倉庫に置いてあり、食器返還の時など  
に、調理のおばさんに交渉し舐めさせてもら  
ったことを思い出します・・・

その頃のことを思うと、今の食事は全く贅  
沢すぎる・・・

だからメタボになって栄養指導を受けるよう  
なことになったのだろうか！？

反省！



## 防空壕

2013-05-20 一 想い出 (学びの時代)



最近、朝日新聞の地方版に掲載された「**幻の本土決戦陣地 跡は語る**」という記事を見て、子どもの頃（終戦前）の家の裏

の畑に掘られていた**防空壕**のことを想い出しました。



戦争末期になって本土空襲が激しくなった頃、自分の家は田舎の山村であったが、阪神地方を空襲したB29が中国に向かって飛ぶコースになっていたらしく、かなり上空であるがB29の機影を見ることがありました。

それに対処するためか、家の裏の畑に**防空壕**が掘られていました。人が屈んで3、4人が入れる位の大きさだったと思います。

**防空壕**といっても焼夷弾が1つでも落とされると、何の役目もしないような幼稚なものだったようですが、幸いに使用することは無く終戦を迎え、いつの間にか元の畑になっていました。

**防空壕**ではないが、田舎の実家にまだ防空を意図した名残が残っています。

それは、蔵の白壁が飛行機から発見されないようにと、泥で茶色に塗られていることです。

新聞で紹介された「**本土決戦陣地**」も未完成的の状態で終戦を迎えたとのことですが、使用されずに幸いだったと思います。

人類皆が「戦争は無駄なこと！愚かなこと！」と知りながら、まだ地球上では内戦などが繰り返されているのはなぜだろう？！

美しい自然の原野を、戦争など愚かなことで破壊しない平和な世の中になりたいものです！！

## 廻ってきた至福のひととき！

2013-05-23 — 独り言

ここ数日、朝夕も過ごしやすい気候になり、自分にとって一年を通じてもっとも楽しい

「至福のひととき！」を味わうことができるようになりました！  




僕の「至福のひととき！」といふのは・・・

くく朝目覚めた後お日様が東の空に上がるのを横目に、庭で新聞に目を通すことくく

夕方、だんだん空が暮れていくのを眺めながら、庭でコップを傾けることゝ

です。

今夜は久し振りに、満月の少し前の月が、雲間に見え隠れするのを眺めながら、コップを傾けました 

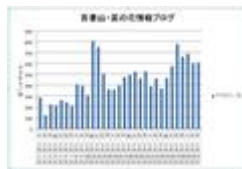
一日の疲れがサッと無くなる「至福のひとつき！」なのです・・・

いつまでも、この朝夕の「至福のひとつき！」

を大事に味わいたいと思っております 

## 定日観測！？

2013-05-27 独り言



サラリーマン生活を卒業し、  
ご隠居？生活の身になると、曜  
日の感覚が薄れてきます・・・ 

例えば、左上に挙げたグラフ

はあるブログの毎日のアクセス数を記録した  
ものですが、毎日採っていた記録が最近少し  
落ち着いたので、1週間に1回の記録にしよ  
うと思い、何曜日が良いかと思案しているた  
ころです。

サラリーマン時代だと、基本的に1週間の

始まりが月曜日と決まっております、曜日を忘れることはまずなかったのですが、毎日サンデーの身になるとマイルストーンになる曜日が無く、つい忘れてしまうのです・・・

どうすればよいか！？ どうも名案が浮かばない！

やはり、自分で作るスケジュールに書き込んでおくしかないのかな！？・・・とも思っているところです。

まあ、毎日サンデーの身になると、自分で自分の行動を律する必要があるようで、記憶力が低下することを防ぐ意味においても、何とかカレンダーをみて、「今日は何曜日だ！だから何々をしなければならない！」と脳味噌を刺激するような習慣をつけたいと思います

す・・・

これがダメなら、やはりスケジュールに書き込んでおくしかないのかな・・・!?



自然の営みは気候！

人の営みはカレンダー！

2013-06-09 — 自然の技



毎年「**花菖蒲**」が楽しめる公園に写真を撮りに行ってきました。📷

例年、6月10頃が見頃と思いカレンダーをフォローしていたのですが、今年は少し早いとの情報も得たので、9日に行ってきました。やはり情報通り既に全面満開で、早い菖蒲田では花柄摘みに追われている様子でした。

ここで改めて思ったのは、

「カレンダーは人様が作ったスケールであり、自然界は当然ながらそれに左右されない！」

ことです。

という

今でもそうかもしれないが、農家の方は春

先の山の雪形を見ながら農作業の準備を進めることをよく聞きました。

また、農作業も夏の暑い日中は昼寝で身体を休め、朝夕の涼しい時に田畑の仕事をしていたものです。

自然を相手にする農作業は、カレンダーに合わせるのではなく、自然の移り変わりに合わせたのです・・・

出来得れば、人の営みも自然に合わせ、自

然とともに時間を送りたいものです。



## 月下美人

今年も月下美人が咲きました・・・

2013-07-16 — 自然の技

自然とは凄いの一言！

1年に1, 2回、夕



方から咲き始め、数



に、あたかも綿密にスケジュールを相談し合ったかのように、同じ時刻に咲き始めるのです・・・  
 昨今の気温等気候の変化は激しいのに、どうしてこのようにうまく



時間で最も美しい花を見せてくれる**月下美人**ですが、同じ日に同じ時刻に咲き始めるのです・・・  
 育てられている場所（鉢）は異なるの



時間が管理できるのであろう・・・ただただ驚くばかりです・・・

その恩恵をいただき、優美な花と漂う香りに浸りながら、暮れゆく庭でコップを傾け、今宵も至福の一時を過ごすことができました・・・



自然に感謝



# バラ

2013-07-23 — 作品



2013. 7. 23

「ごんすねん  
綺麗に咲いて  
くれるか?」と、

毎日眺めな

がら自己流で

**バラ**を数株で

すが育ててい

ます・・・

春からもう3番花くらいになり、花は少し  
小ぶりになっているが、ご機嫌を伺うのが日  
課になり、特に開き始めの可愛い花が目を楽



2013. 7. 23

の成長は**バラ**  
任せです・・・



とにかく、  
自然のものは



2013. 7. 23

しませてく  
れます👹👹  
周囲の雑  
草や枯葉な  
どは、でき  
るだけ取り  
除くように  
しています  
が、**バラ**自身

自然体で楽しませてくれることをモットーに  
眺めていきたいと思っています・・・  


## 「隠居の井戸端会議」

2013-09-06 — 独り言

昨日、サラリーマン時代の友人と杯・コップを酌み交わしました・・・

これは、2、3ヶ月に1回位の頻度で幹事役が声を掛けてくれ、居酒屋に集い、ワイワイガヤガヤ口を動かし、脳の活性化に役立てて



いる、楽しい一時なのです。  
会話は、脳の司令塔のような役割がある**前頭葉**を活性化するのに大いに効果があるといわれています。

サラリーマン生活を卒業し、毎日サンデー的な日々を送っている者にとっては、このような集いでの**会話は前頭葉**の活性化に大いに貢献するようです。

町の社会福祉協議会が、高齢者などを対象

に行っている「たすけあいネットワーク」の中にも、**会話**の大切さを実践する「話し相手」という内容があります。

一昔前には、**井戸端**に食器洗いなどに隣近所のお母さん方が集まり、ワイワイガヤガヤと世間話に花を咲かせ、そこにご**隠居**さんが顔を覗かせることもあり、お互い脳の活性化を図っていたように思われます。

今ではこのような井戸も見当たらなくなり、楽しみながら脳を活性化するような**会話**の機会も少なくなっているのではないのでしょうか？

ご**隠居**や**井戸端**といった言葉も死語になりつつあるようですが、昔の**井戸端**会議の様な楽しい語らいの場は、何時までも失わないようにしたいものです！  


上の写真は、この話題には直接関係ありませんが、朝は純白だが夕方には濃いピンクに変わる**醉芙蓉**の夕方の様子です。

時間が経つにつれ、だんだん色が濃くなっていく様子・・・人の一生に似ているようです。



## 油断大敵!!!

2013-10-30 一人言



先日、書棚  
の上のものを、  
台の上に乗っ  
て取ろうとし  
たときに、不  
覚にも転び尻  
餅について腰  
を痛めました



当日はあま  
り痛まなかつ

たが、翌日痛みが増したので病院で診察を受  
けたところ、脊椎の**圧迫骨折**とのこと・・・  
齢から見て、骨粗しょう症の傾向も見られ  
ることと、その対策の注射もしばらく続  
けるようにとのこと。また、しばらくコルセ  
ットのお世話になることにもなりました。

反省するに、屋内であり、従来同じような  
方法を使っていたとの**油断**から、つい注意を  
怠ってしまったようです。

更なる原因は、自分の齢を忘れての動作だ  
ったのかもわかりません・・・

とにかく、このような事故は、**油断**したと  
きに起こるようです！

日頃から気を付けているつもりですが、「**油  
断大敵！怪我一生！**」を肝に銘じての行動が

必要なことを改めて知った出来事でした・・・  
特に齢を重ねていくうえで「油断はするな！」  
との警告だったようです。

まだ少し痛みが残っていますが、この警告  
を肝に銘じ、これからの日々を大事にしたい  
と思います。



写真は、自分の還暦記念に家族が植えてく  
れた「ハナミズキ」の紅葉のスナップですが、  
このように自然のままに色付いて行く様を、  
自分の日々の生活にも取り入れていきたいと  
思いシャツターを切った一コマです・・・

## 「美しい..」と「きれいな..」

先日  
ラジオの深  
夜便で、名前  
は覚えてい  
ないが、日本  
建築の技を  
世界各方面  
にPRして  
いる左官職  
人の方が「美  
しい！」と  
「可愛い！」、



2013-11-20 — 独り言

「きれい！」について話されていた・・・

「美しい！」と「可愛い！」には、その言葉に感情が込められている・・・が「きれい！」にはあまり感情が入ってこない・・・と！

確かにそんな気がします・・・

例えば、上の写真のような、秋の青空に映える紅葉を見た場合、まずは「きれい！」と思うが、眺めているうちに「美しい！」の気持ちになる！

それは、単に目にした印象だけでなく、「紅葉」が春先の新芽から夏の緑、そして冬を迎え落葉し春の新芽の肥やしになると、その経過を想い、自然は素晴らしいとの感情を持つからでしょう・・・

赤ちゃんを一見して「可愛い！」と思うが、あまり「きれい！」と言わないのもそんな感じからかもしれません。

何事も「きれい！」ですませないで、  
「美しい！」と感じたいものです！



## 想い出を冊子に……

2013-12-09 作品



この  
ブログを  
何時から  
書き始め  
たかを遡  
ってみま  
した・・  
2004  
年11月  
に「はじ  
めまし  
て！」と

いう4行の記事を書いたのが最初でした。

2004年と言えば9年前・・

読み出してみると、断片的な記憶も時期を伴って思いだし、懐かしいものでした！

9年も経つと、データとしては残っていても、その頃を取り出すことはあまりなく、記憶の彼方に霞んでしまっているようです。

そこでふと思いついたのが、以前ホームページに書いたことを冊子にして手元に置き見やすくしたことでした・・

今回もこの方法を踏襲しようと、冊子化を始めました・・

冊子に編集する過程で、その時々を、アップしていた写真と共に読み直すことになり、懐かしみながら編集しております。

9年も貯まっていたものを、編集することになるので、今書き込んでいるところまで追いつくのは、何時になることやら・・・

まあ、楽しみながら続けることにします！



## 忘年会！？

2013-12-26 — 独り言

年の瀬を迎えると、1年間で忘れると

いうよりも、1年を振り返る懇親会のシーズンになります・・・

サラリーマンを卒業しても、学校時代の同期会、サラリーマン時代の同僚達、日頃のボランティア



仲間など・・・

この暮れも、11月の下旬から始まったこのような機会が6回もありました。

それぞれにメンバーも異なり、環境もいろいろですが、70も後半の齢となると、想い出話はいつの間にか影を潜め、自分の健康維持の話になってしまいます。

アルコールの量も若かりし頃のように進まず、二次会の声も少なく、良き後期高齢者の集いで、「では、**身体に気を付け、また会おう!**」で次の再会を祈念してお開きになります。

もう2つお正月を迎えると80歳に手が届く自分にとっては、これで良いのではないかと満足して家路につくのです・・・

いつまでも、このような楽しい会が続きますように!

## 慣習とマンネリズム

2013-12-30 — 独り言



今年も玄関のお正月飾りを作りました・・・  
毎年のことながら、年の瀬が来ると、同じものでも楽しみながら作ります。

一方、ブログなどを見返すと、なんだか「マ  
ンネリズム」になっているようで、少しは変  
化したいと考えることが常です。

前者は、どちらかと言えば「慣習」で、子  
どもの頃から同じようなものを作っているも  
それほど気になりません。

逆に、ブログのように「慣習」とらわれず  
創作するものには、「マンネリズム」になら  
ないように新しい内容を模索するのですが、  
歳を重ねるにしたがって繰り返しが多くなっ  
ているようです。

「慣習」の方は季節の移り変わりと共に、  
子どもの頃を忘れないように続けたいと思っ  
ますが、創作の方はできる限り同じものの繰

返しにならないように、日頃の脳味噌のトレ

ーニングを心掛けたいと思います。

